

## FB型手動グリースポンプ説明書

FB型グリースポンプは適量なグリースを任意に集中的に供給する集中潤滑装置の供給源として使用されるハンドタイプのポンプであります。

### 1. 主仕様

#### FB-4A、6A(標準型)

- ・吐出圧力：10MPa
- ・吐出量：7cm<sup>3</sup>/ストローク
- ・タンク容量：(4A) 2ℓ  
(6A) 5ℓ

#### FB-42A、62A(高圧型)

- ・吐出圧力：21MPa
- ・吐出量：3.5cm<sup>3</sup>/ストローク
- ・タンク容量：上記に同じ

### 2. 構造、作動説明(図-Iを参照下さい。)

このポンプの作動はハンドルを約40°の角度で前後に動かします。①ハンドルシャフトにはその角度に見合った②扇型歯車(ピニオン)がついており、③ポンプピストンに切っただラックと噛合っております。このピストンが図の様に一端に寄っていると吸込口aが開放されています。グリースはこの孔よりシリンダー内に入り、ハンドル操作によるピストンの移動で吸込口aは塞がり圧力を受けたグリースが④チェックピストンを押し開き、⑤切換弁に通じる孔へ流れ込むと同時に⑥圧力計の方にも圧力を伝達します。ピストンが移動してしまうと、グリースは吸込口bからシリンダー内に入り、次の吐出にそなえます。ハンドル操作によるグリースの吐出はこの繰り返しによって行なわれます。

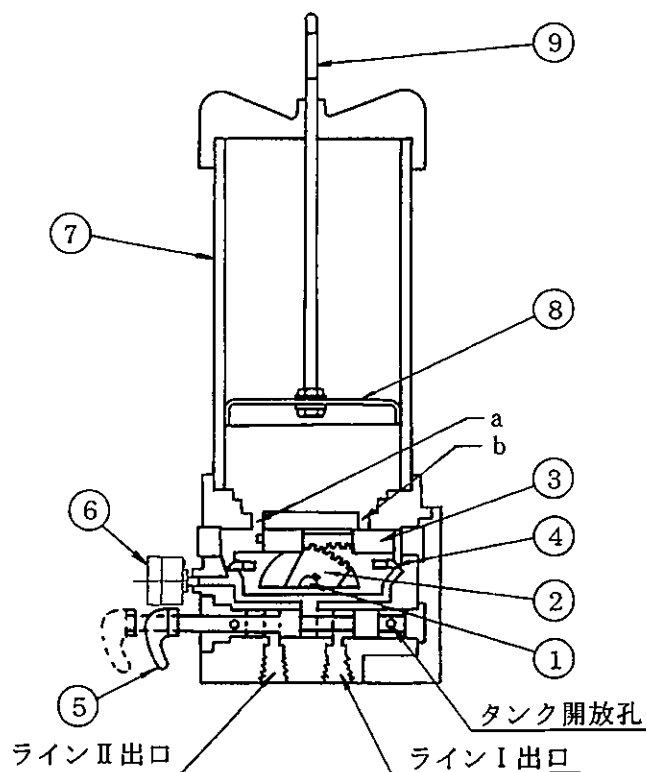


図-I

切換弁まで来たグリースは、ここでどちらか一方のラインに送り出されることになります。図の様に切換弁が押し込まれている状態ではラインⅠが供給ラインとなり、ラインⅡは開放孔を介して⑦タンクに通じる開放ラインとなります。ラインの圧力上昇を圧力計やハンドルの手ごたえで確認して一回の給脂が完了すると切換弁を引き出して、供給ラインの圧力をタンクへ開放し、次の運転開始に備えます。

タンク内にはグリースの消費に応じて油面を水平に保つための⑧フォロアプレートがあり、それに連結された⑨油面指示棒の位置により、タンク内のグリース量が確認できるようになっています。

### 3. 取扱注意事項

- 1) タンクにグリースを充填する場合にはフィーラパックまたはトランスファポンプを用いてポンプ側面の補給口と接続して下さい。上蓋を外してグリースを流し込んだりしますと、エアや塵埃が混入して、吸込み不良やその他障害の原因となります。
- 2) グリースは集中潤滑用グリースNo.0(稠度350以上)またはNo.1(稠度310~340)のものを使用して下さい。  
No.2以上のグリースやカップグリースでは流動抵抗が大きくなったり、配管内で分離したり円滑な操作が困難になります。
- 3) 1回の運転が完了すれば必ず切換弁のレバーの位置を変えてライン圧力を開放して下さい。
- 4) ハンドル操作によって所定の圧力以上に上げることは可能ですが、必要以上に圧力をかけないで下さい。  
ポンプや他の機器に歪を生じることがありますから注意して下さい。
- 5) 長期に亘り休止後、再使用の場合はハンドルを操作し最初に出たグリースを棄てて下さい。

### 4. 保守、調整

- 1) 正常な運転時に全分配弁作動完了に要するハンドルの操作回数と上昇圧力を記録しておいて下さい。(夏季と冬季では異なります。)
- 2) 正常に圧力が上昇しない時は供給管からの漏洩か、ポンプのチェックピストンの作動不良またはエアの混入であります。逆に急激に圧力上昇する場合は分配弁作動不良が多いか主管途中でつまっています。

- 3) エア抜きの方法はエア抜バルブをゆるめて、グリースが連続して出てくる迄続けて下さい。(図-Ⅱ)  
また、グリース内に気泡が多い時にはタンク内のグリースを全部入れ替えて下さい。

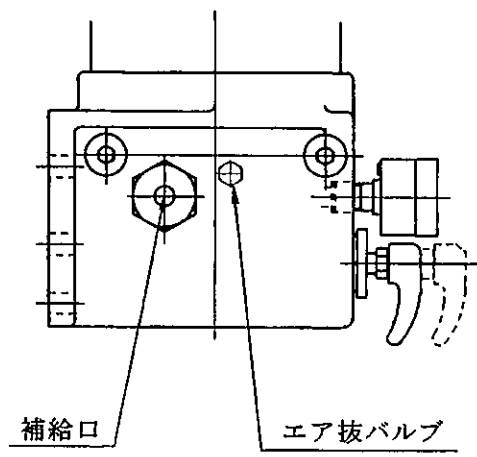


図-Ⅱ

- 4) 逆止弁の清掃はタンクに張ってある説明銘板を参照の上分解し、チェックスリーブ、プランジャピストン、スプリング等をよく洗って組立てて下さい。